

OKI

ユビキタスサービスプラットフォームを実現するソリューション・コンセプト「OSCP」

沖電気工業（以下、OKI）は、NGN、インターネット、そして他のネットワークを統合したユビキタスサービスプラットフォーム上で実現される「e社会[®]」の実現に向けて、“いつでも、どこでも、何とでも”、“欲しいサービスを望む形で”、“安全に、確実に”、を基本コンセプトとしたユビキタスサービスを構築する様々な製品/ソリューションを開発・提供してきた。ここでは、ユビキタスサービスプラットフォームを実現するソリューション・コンセプト「OSCP」と、そのコアとなる「OSCP-SDP」について紹介する。

NGNの機能を取り入れたサービスを開発・提供

ブロードバンドIPのリーディングカンパニーの地位を築いてきたOKIが提唱している「e社会[®]」とは、NGNのように、全てのユーザーにサービスを提供することができるシームレスなネットワーク環境の上で実現される社会のことである。NGNは、IP技術をベースとした次世代のブロードバンドIPネットワークである。NGNの特性を活用することで、既存の固定電話や携帯電話サービスに加えて、高品質映像配信、テレビ電話、企業向け高信頼性通信サービス等が同一ネットワーク上で提供されるようになる。また、全てのサービスが同一ネットワーク上で提供されることで、トリプルプレイ、クワドロプルプレイ、FMC (Fixed Mobile Convergence) といったサービスを容易に提供できるようになる。このNGNを支える仕組みとして注目されているのが「SDP (Service Delivery Platform)」である。SDPは、ネットワークを介してアプリケーションサービスやコンテンツ配信サービスを提供するサービス基盤となるもの

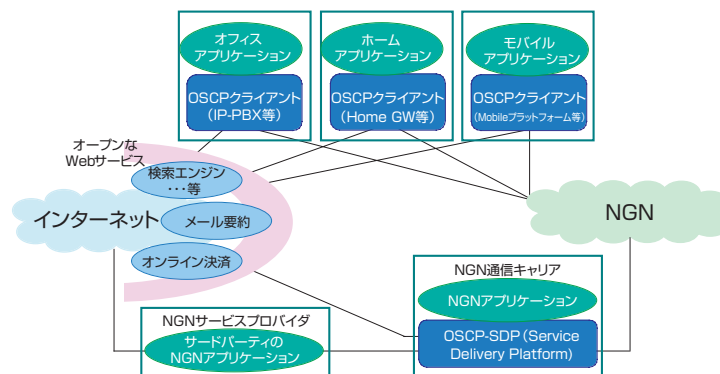
で、例えば、通信キャリアがアプリケーション構築に必要な機能をサードパーティに提供するための機能等を備えている。企業や個人がこのSDPを利用して、NGNの機能を取り入れたサービスを開発することで、ネットワークの利用形態やサービス形態が多様化し、利用者の様々なニーズに対応したサービスが提供されるようになる。

ユビキタスサービスの基盤となるユビキタスサービスプラットフォーム

OKIは、汎用サーバをベースとした通信キャリア向けVoIPアーキテクチャの開発に取り組む中で、SIP対応J2EEサーバ「SipAs[®]」を発表す

るなど、現在のSDPの原型となる製品を他社に先駆けて発表してきた。この「SipAs[®]」を核としたソリューション・コンセプト「OSCP (OKI Service Convergence Platform)」に基づき、NGNの特性を利用したアプリケーションやインターネットを介したサービス等を連携したユビキタスサービスを構築する基盤となるユビキタスサービスプラットフォームの構築に取り組んでいる。このOSCPに対応したプラットフォームを構築することで、ユビキタスサービスからは、NGNやインターネットが1つの統一されたサービス基盤に見えるようになる。

OSCPは、ユビキタスサービスに



※NGNサービスプロバイダ:自身のサービスの一部あるいは全部をNGNを介してユーザーに提供するサービスプロバイダのこと。

図1 OSCPの概念図

対しNGN機能を利用したサービスを構築・提供するコンピューティング基盤である「OSCP-SDP」と、NGN機能とWeb機能を融合したアプリケーションの利用基盤である「OSCPクライアント」で構成されている（図1参照）。

NGNの機能を利用したコンピューティング基盤「OSCP-SDP」

OSCP-SDPは、NGNが提供するサービス機能をAPI（Application Program Interface）を介して利用し、より付加価値の高いアプリケーションを実現・提供するためのプラットフォームである（図2参照）。OSCP-SDPは、「SIPアプリケーションサーバ（SIP-APサーバ）」、「SAG（Service Access Gateway）」、「サービスオーケストレーション」などで構成されている。

SIP-APサーバは、Javaベースのシステムを採用して、Webサービスの実行環境とSIPによるセッション制御環境を提供するもので、NGNの機能や情報をアプリケーションから利用するためのイネーブラと呼ばれる再利用可能なソフトウェアインタフェースを装備している。このイネーブラにより、従来の通信系ソフトウェアに必要な通信プロトコル、リアルタイム制御、冗長機能などの専門技術を隠蔽して、汎用的なJavaやWeb技術を利用できるようになり、アプリケーション開発を容易にするとともに、キャリアグレードのシステム性能を提供することが可能になる。また、複数のイネーブラを

組み合わせることで、アプリケーション開発のスピードを速め、多彩なサービスを早期に実現することができるようになる。

SAGは、APIの公開の際に、インタフェースを利用するサードパー

ティのアクセス制御、利用状況の管理、課金情報収集などを可能にするものである。このSAGを利用することで、NGNを提供する通信キャリアは、安心かつ安全にサービスを公開することができるようになる。一方、APIを利用するサードパーティは、OSCP-SDPが提供する機能を一般的なWebサービスのインタフェースとして利用できるようになり、NGNのための専用設備の設置や通信技術の習得は不要となる。

そして、サービスオーケストレーションは、複数のサービスを連携させて、新たなサービスを構築するものである。SIP-APサーバ上のイネーブラが提供するサービスと、インターネットを経由して提供されるサービス機能、NGN経由で接続可能なユーザー企業の情報システムが提供するアプリケーションなどを連携させることが可能となり、サービス

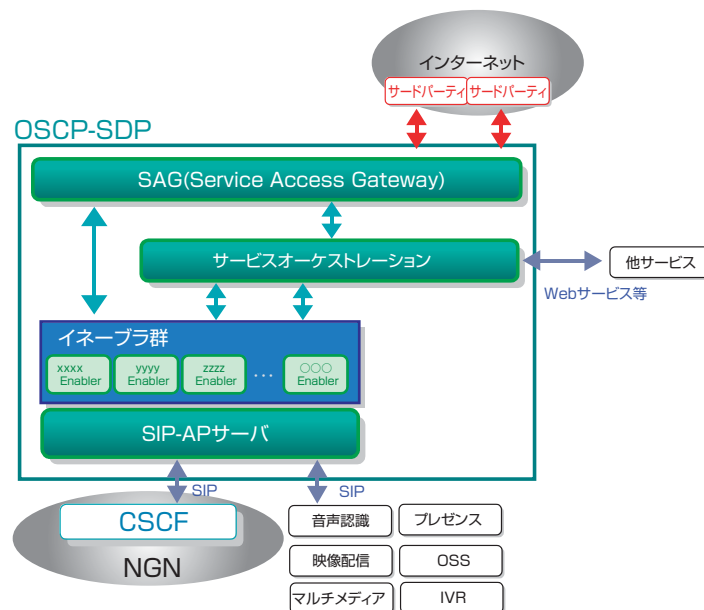


図2 OSCP-SDP構成の一例

機能の再利用や新サービスの迅速な提供が容易になる。

OKIは、現在、OSCPのコンセプトに賛同したパートナー企業やサービスプロバイダと提携して、NGN利用方法に関する検討を進めながら、サービスを提供する側、利用する側双方からのニーズを取り入れ、SDPを活用した魅力的なサービスの提供に取り組んでいる。そして、ユビキタスサービスを実現するために必要な「コミュニケーション手段」、「メディア制御」、「コンテキスト情報」といった要素を実現する高機能なイネーブラをOSCP-SDPにて提供し続けていく。

お問い合わせ先

沖電気工業(株)

ネットワークシステムカンパニー
問合せ用URL：

<https://www.oki.com/jp/ngn/ssl/inquiry.html>

URL：<http://www.oki.com/jp/ngn/>